

U.S. Indicators

発表日: 2023年12月13日(水)

米国 コアインフレの鈍い低下が継続(11月CPI)

～コアインフレは早期利下げを支持せず～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治(Tel:050-5474-7493)

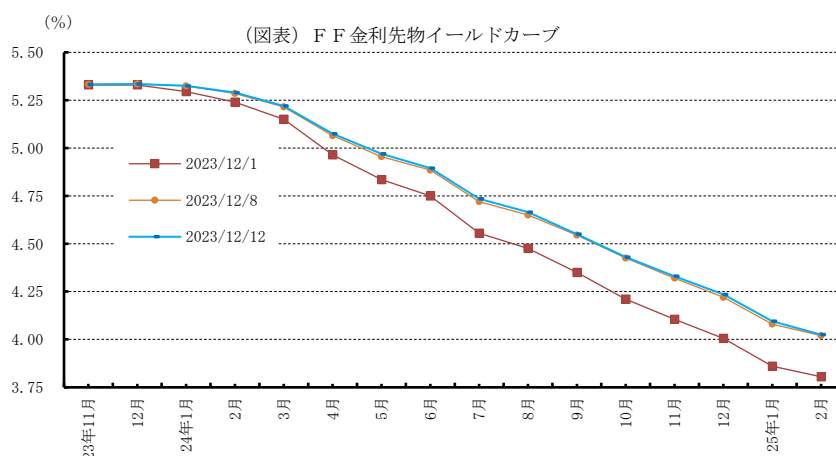
	消費者物価											
	総合		コア		エネルギー	食品	住宅	アパレル	運輸	医療	財 コア	サービ ス コア
23/04	+0.368	(+4.9)	+0.409	(+5.5)	+0.6	+0.0	+0.2	+0.3	+1.2	▲0.0	+0.6	+0.4
23/05	+0.124	(+4.0)	+0.436	(+5.3)	▲3.6	+0.2	+0.2	+0.3	▲0.2	+0.1	+0.6	+0.4
23/06	+0.180	(+3.0)	+0.158	(+4.8)	+0.6	+0.1	+0.3	+0.3	+0.2	+0.0	▲0.1	+0.3
23/07	+0.167	(+3.2)	+0.160	(+4.7)	+0.1	+0.2	+0.4	▲0.0	▲0.1	▲0.2	▲0.3	+0.4
23/08	+0.631	(+3.7)	+0.278	(+4.3)	+5.6	+0.2	+0.3	+0.2	+2.6	+0.2	▲0.1	+0.4
23/09	+0.396	(+3.7)	+0.323	(+4.1)	+1.5	+0.2	+0.6	▲0.8	+0.3	+0.2	▲0.4	+0.6
23/10	+0.045	(+3.2)	+0.227	(+4.0)	▲2.5	+0.3	+0.3	+0.1	▲0.9	+0.3	▲0.1	+0.3
23/11	+0.097	(+3.1)	+0.285	(+4.0)	▲2.3	+0.2	+0.4	▲1.3	▲0.6	+0.6	▲0.3	+0.5

(注) 括弧内は前年同月比

23年11月の消費者物価(総合)は、前月比+0.1%(10月同0.0%)と上昇し、市場予想中央値0.0%(筆者予想同0.0%)を上回った。食品が前月比+0.2%(10月同+0.3%)と低下した一方、ガソリンなどエネルギーが同▲2.3%(同▲2.5%)と下落幅を縮小した。また、エネルギー・食品を除く消費者物価(CPIコア)は同+0.3%(同+0.2%)と市場予想中央値の同+0.3%(筆者予想前月比+0.2%)と一致したが、上昇した。

前年同月比では、総合が+3.1%(10月+3.2%)と低下し、市場予想中央値+3.1%(筆者予想+3.1%)と一致した。エネルギーが▲5.4%(同▲4.5%)と下落幅を拡大したほか、食品が+2.9%(同+3.3%)と低下した。ただし、CPIコアは+4.0%(同+4.0%)と市場予想中央値の+4.0%(筆者予想+4.0%)と一致したものの、下げ渋った。

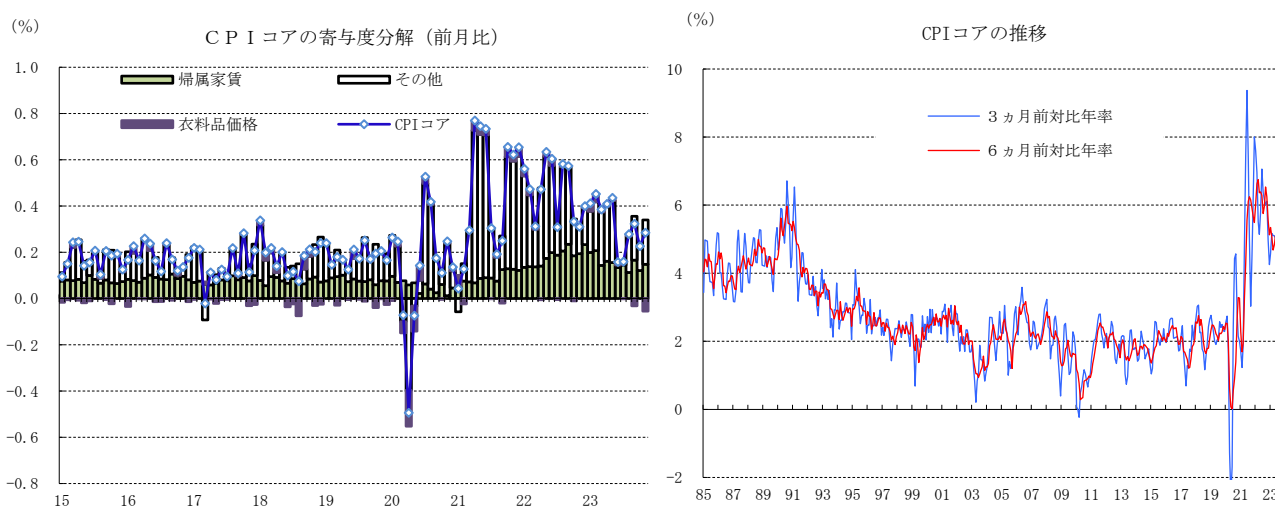
F F先物市場では、11月CPI統計が11月雇用統計に続き、早期利下げを肯定しない内容だったため、市場の利下げ開始時期の織り込みは変わらなかった。予想よりも弱いCPI統計が期待されていたこともあり、統計公表後に市場金利が上昇し、株価は調整、ドルは主要通貨に対して強含んだ。しかし、翌日のFOMCを控えて10年債利回りや為替は水準を戻し、株価は上昇した。



CPIコアでは、財コアが前月比▲0.3%（前月同▲0.1%）とマイナス幅を拡大したものの、サービスコアが前月比+0.5%（同+0.3%）と上昇した。財では、中古車、自動車部品が上昇に転じたほか、医療用品が上昇した。一方、衣料品、余暇商品、アルコール飲料が下落に転じたうえ、家庭用耐久・消耗品、教材、情報機器が下落幅を拡大、新車は下落を続けた。また、その他財は低下した。

サービスでは、ホテル・宿泊、レンタカー、航空運賃が下落したほか、病院・関連サービス、自動車保険が低下した。一方、専門医療、医療保険、インターネットサービスが上昇に転じたうえ、帰属家賃が上昇した。さらに、賃料は高い伸びを続けた。

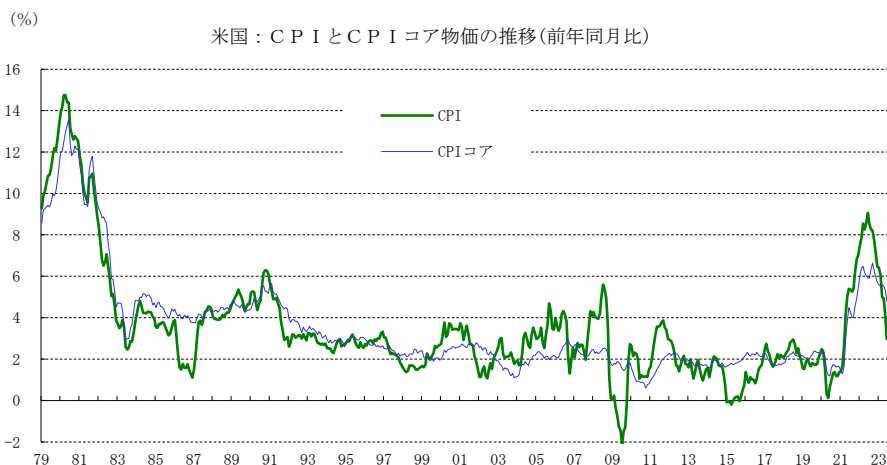
インフレの基調を示すCPIコアの安定には、前月比で+0.2%以下の低い伸びが継続する必要があるものの、23年は6、7月を除いて上回ったままである。また、インフレの上昇モメンタムをみると、6カ月前対比年率では+2.9%（前月+3.2%）と低下し、中期的なインフレ圧力が弱まっている一方、3カ月前対比年率で+3.39%（前月+3.36%）と上昇、短期的なインフレ圧力が再び強まりつつあり、足元でのCPIコアの低下が不十分であることを示している。



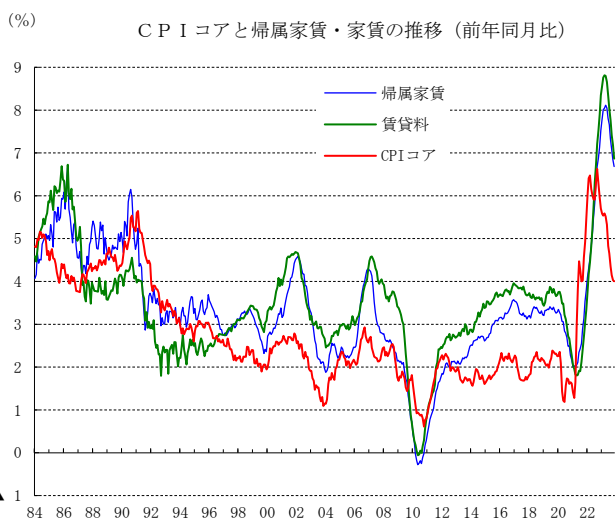
前年同月比では、総合が+3.1%（前月+3.2%）と低下し、市場予想中央値+3.1%（筆者予想+3.1%）と一致した。エネルギーが▲5.4%（同▲4.5%）と下落幅を拡大したほか、食品が+2.9%（同+3.3%）と低下した。ただし、CPIコアは+4.0%（同+4.0%）と市場予想中央値の+4.0%（筆者予想+4.0%）と一致したが、同率の上昇にとどまった。

CPIコアでは、財コアが0.0%（前月+0.1%）と低下したものの、サービスコアが+5.5%（同+5.5%）と同率の上昇となった。財コアでは、医薬品など医療用品が上昇した一方、家庭用耐久・消耗品、中古車、自動車部品、娯楽用品、教科書、情報機器が下落したほか、衣料、新車等が低下した。

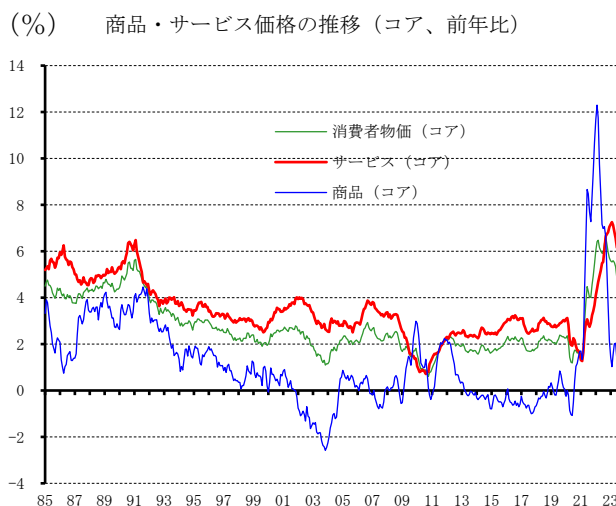
サービスコアでは、医療保険、レンタカー、航空運賃、携帯が下落したほか、賃貸料、帰属家賃が高い伸びながら低下した。ただし、サービスコアは前年比+5.5%と高い伸びにとどまっており、CPIコアの鈍い低下の主因となったままである。



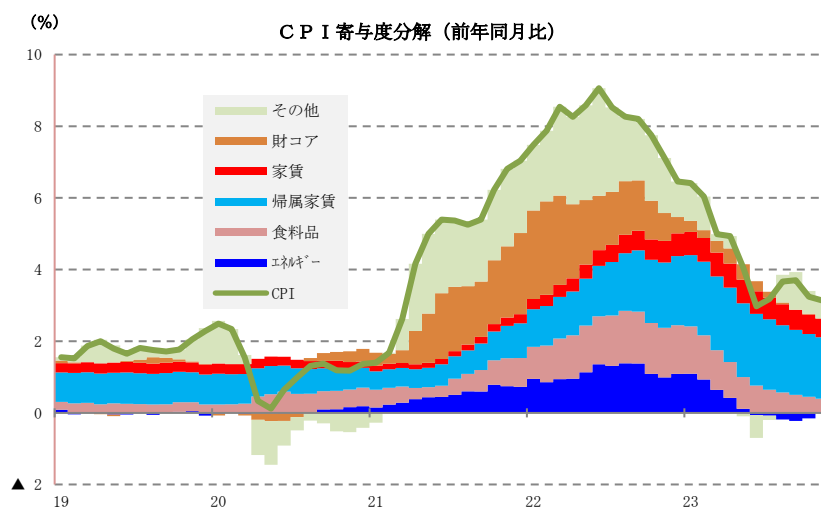
(出所) 米労働省



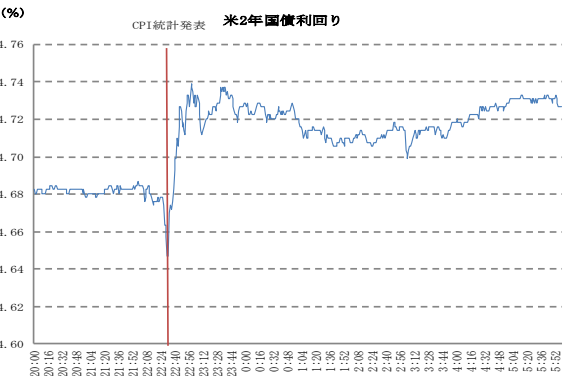
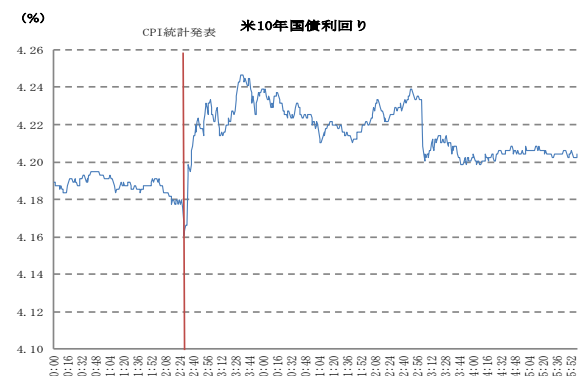
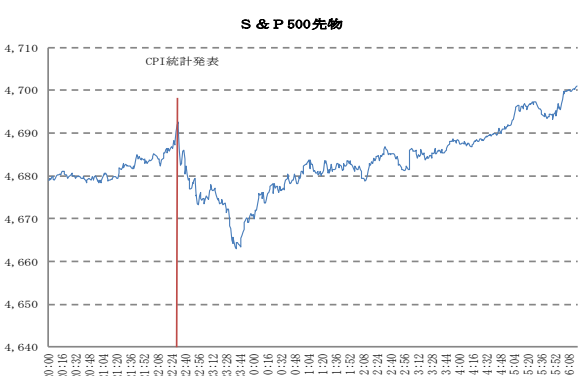
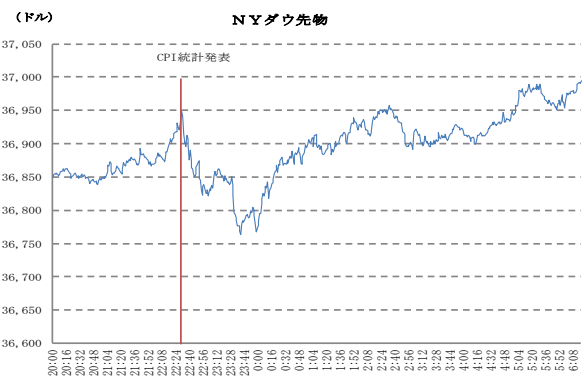
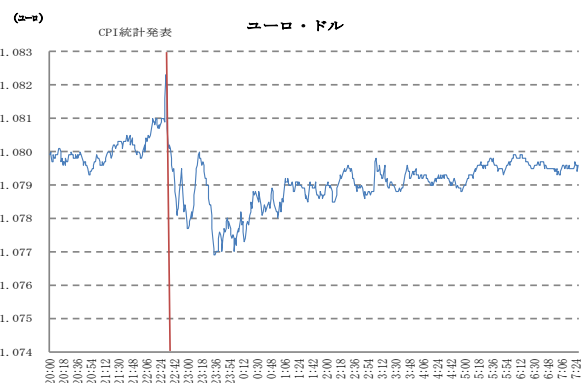
(出所) 米労働省



(出所) 米労働省



(出所) 米労働省



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

